

## 地域計画を巡る政策コンフリクトの類型化

山口大学大学院	正会員	榊原 弘之
静岡市	非会員	木村 恭平
山口大学大学院	学生会員	山崎 慎也

## 1. はじめに

まちづくり等の地域計画において、当事者間の連携の必要性が高まっている。異なった立場を有する当事者が相互理解を深めるためには、互いの立場や相互関係の構造に関する認識を共有する必要があると考えられる。本研究では、市民、行政、民間企業等の複数の当事者が地域計画に関与する状況を参加型意思決定と呼ぶ。その上で、筆者らが既往研究<sup>1)</sup>で提案している政策コンフリクトモデルを用いて、当事者間の関係の構造的特徴の分類を試みる。

## 2. 政策コンフリクトモデル

政策コンフリクトモデルを定式化する。以下では参加型意思決定に関与する当事者のことを参加者と呼び、参加者の集合を  $N$  で表す。各参加者  $i (i \in N)$  は、対象の政策課題について、具体的目標や理想像などを有している。政策コンフリクトモデルでは、これを参加者  $i$  の「関心事」と呼び、 $\gamma_i$  で表す。すべての参加者の関心事の集合を  $\Gamma$  で表すとする。また、関心事  $\gamma_i$  を実現できる参加者をアクターと呼び、関心事  $\gamma_i$  を有する  $i$  自身(受益者)のことをレシーバーと呼ぶ。アクターの行動によって、関心事は実現される。行動  $a$  により実現される関心事は、関数  $c(a)$  により与えられるとする。

関心事  $\gamma_i$  のアクターが複数であるとき、 $\gamma_i$  の実現のためには複数の参加者の行動が必要となる。また、 $\gamma_i$  のレシーバーが複数であるとき、 $\gamma_i$  はそれらの参加者に共有された関心事である。

さらに、すべての関心事の集合  $\Gamma$  の部分集合として以下の集合を定義する。

$A_i$  : 参加者  $i$  がアクターである関心事の集合

$\Gamma_i$  : 参加者  $i$  がレシーバーである関心事の集合

$\bar{\Gamma}_i$  : 参加者  $i$  がレシーバーでない関心事の集合

これらの集合の関係を図1に示す。 $A_i \cap \Gamma_i$  に含まれる関心事については、参加者  $i$  はアクターでありかつレシーバーである。この場合  $i$  は自分の関心事を自ら実現することができる。一方  $\Gamma_i$  に含まれるが、 $A_i$  に

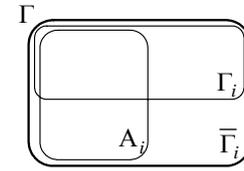


図1 関心事の集合の相互関係

含まれない関心事については、 $i$  はレシーバーであるがアクターではない。このときは関心事を実現することはできず、ほかの参加者の行動が必要となる。さらに  $A_i \cap \bar{\Gamma}_i$  に含まれる関心事については、 $i$  はアクターであるがレシーバーではない。 $i$  はこの関心事を実現させることができるが、受益者ではない。

## 3. 政策コンフリクトの類型化

2. で定式化したモデルを用いて、2人の参加者(参加者1,2と呼ぶこととする)が関与する参加型意思決定における政策コンフリクトを、以下の4つの類型に分類する。

## タイプ1 双方向型コンフリクト

双方向型コンフリクトにおいて、関心事の集合は以下の条件を満足する。

$$\Gamma = \{A_1 \cup A_2\}, \Gamma_1 \cap A_2 \neq \{\emptyset\}, \Gamma_2 \cap A_1 \neq \{\emptyset\} \quad (1)$$

このとき参加者1,2の関心事の集合  $\Gamma$  は、4つの部分集合  $\{\Gamma_1 \cap A_1\}$ ,  $\{\Gamma_1 \cap A_2\}$ ,  $\{\Gamma_2 \cap A_1\}$ ,  $\{\Gamma_2 \cap A_2\}$  に分割される(図2)。 $\{\Gamma_1 \cap A_2\}$  及び  $\{\Gamma_2 \cap A_1\}$  が非空であるため、どちらの参加者も開いて参加者の関心事の実現に寄与するような行動の選択肢を有している。すなわち、図3に示すように、参加者1が適当な行動  $a_1$  を選択することにより、参加者2の関心事  $\gamma_2$  を実現することができ ( $\gamma_2 = c(a_1)$ )、参加者2が適当な行動  $a_2$  を選択することにより、参加者1の関心事  $\gamma_1$  を実現することができる ( $\gamma_1 = c(a_2)$ )。

双方向型のコンフリクトには、参加者間の行動の相互作用が存在する。その点で、ゲーム理論的モデルは、主として双方向型コンフリクトを分析の対象としていると考えられる。政府間のコンフリクト(都道府県間、

キーワード 政策コンフリクト, 市民参加, コンフリクト調整

連絡先 〒755-8611 山口県宇部市常盤台 2-16-1 山口大学大学院理工学研究科 TEL 0836-85-9355

自治体間のコンフリクト等), 政府と企業間のコンフリクト等は, 双方向型コンフリクトに分類されることが多いと考えられる.

タイプ2 一方向型コンフリクト

一方向型コンフリクトにおいて, 関心事の集合は以下の2条件のいずれかを満足する.

$$\Gamma = \{A_1 \cup A_2\}, \Gamma_1 \cap A_2 = \{\emptyset\}, \Gamma_2 \cap A_1 \neq \{\emptyset\} \quad (2)$$

$$\Gamma = \{A_1 \cup A_2\}, \Gamma_1 \cap A_2 \neq \{\emptyset\}, \Gamma_2 \cap A_1 = \{\emptyset\} \quad (3)$$

一方向型コンフリクトにおいては,  $\Gamma$  は, 3つの部分集合  $\{\Gamma_1 \cap A_1\}, \{\Gamma_2 \cap A_1\}, \{\Gamma_2 \cap A_2\}$  (図4), または  $\{\Gamma_1 \cap A_1\}, \{\Gamma_1 \cap A_2\}, \{\Gamma_2 \cap A_2\}$  に分割される. 双方向型コンフリクトとは異なり,  $\{\Gamma_1 \cap A_2\}$  または  $\{\Gamma_2 \cap A_1\}$  が空となる.  $\{\Gamma_1 \cap A_2\}$  が空である図4の場合, 参加者1は適当な行動  $a_2$  を選択することにより, 参加者2の関心事  $\gamma_2$  を実現することができるが ( $\gamma_2 = c(a_1)$ ), 参加者2は参加者1の関心事の実現に寄与することができない(図5). 従って, 一方向型コンフリクトにおいては, 一方の参加者のコンフリクトに対する主導権は, 他方の参加者と比較して弱くなると考えられる.

一方向型コンフリクトの典型例は, 政府と住民グループの間のコンフリクトであると考えられる. 公共サービスの供給者として, 政府(図5における参加者1)は住民グループ(参加者2)の関心事に関わる意思決定を行う. 他方住民グループは, 政府の関心事に関わるような行動の選択肢を持たないことも多い. しかし, 実際の一方向的コンフリクトにおいては, 主導権の弱い参加者は, 世論の支持の獲得などにより, コンフリクトの構造を変化させようと努めることが多い. この場合, 当初は一方向的コンフリクトであったものが, 双方向型コンフリクトに推移するケースも存在すると考えられる.

タイプ3 孤立型

$$\Gamma = \{A_1 \cup A_2\}, \Gamma_1 \cap A_2 = \{\emptyset\}, \Gamma_2 \cap A_1 = \{\emptyset\} \quad (4)$$

孤立型においては,  $\{\Gamma_1 \cap A_2\}$  及び  $\{\Gamma_2 \cap A_1\}$  がともに空集合であるため(図6), 参加者は互いの関心事のアクターではない(図7). 参加者間に依存関係が存在しないため, 参加型意思決定によって解決可能な課題は存在しないと考えられる.

タイプ4 不完備な参加枠組み

$$\Gamma \supset \{A_1 \cup A_2\} \quad (5)$$

ここでは, 参加者1,2の関心事の中に, 参加者1,2の

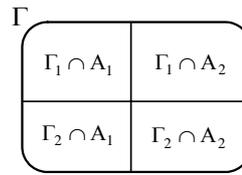


図2 双方向型コンフリクトにおける  $\Gamma$  の分割

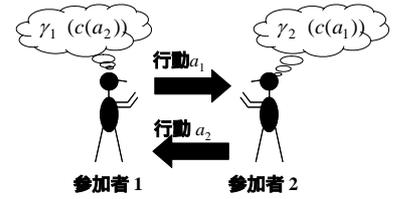


図3 双方向型コンフリクトにおける参加者間の関係

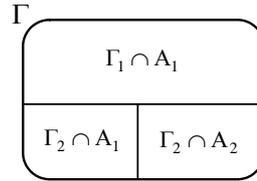


図4 一方向型コンフリクトにおける  $\Gamma$  の分割(一例)

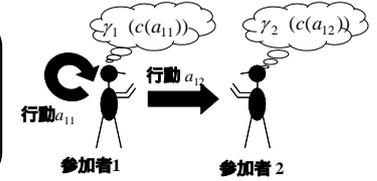


図5 一方向型コンフリクトにおける参加者間の関係(一例)

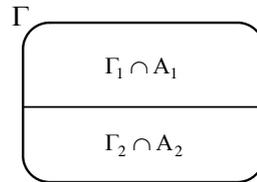


図6 孤立型における  $\Gamma$  の分割

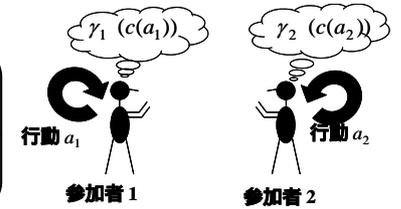


図7 孤立型における参加者間の関係

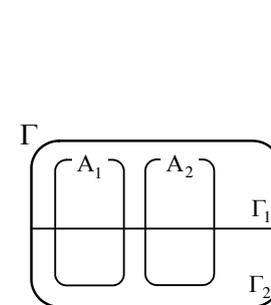


図8 不完備な参加枠組みにおける  $\Gamma$  の分割

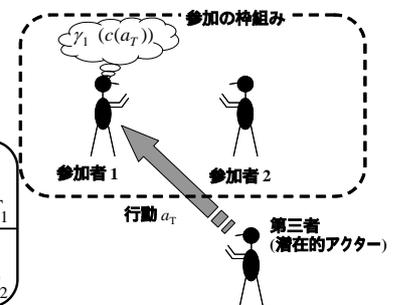


図9 不完備な参加枠組みにおける参加者間の関係

いずれもがアクターでない関心事が存在する(図8). つまり, 参加者1,2のすべての関心事を実現するためには, 現在の2者による参加の枠組みは不十分であり, 新たな第三者の参加が必要であると考えられる(図9). このタイプのコンフリクトにおいては, 第三者(潜在的アクター)を以下に関与させるかがコンフリクト調整の課題となると考えられる.

参考文献

榊原弘之・木村恭平・水戸崇文: 参加型意思決定プロセスのための政策コンフリクトモデル, 土木計画学研究・講演集 Vol.34, 192, 2006.